



九州大学福岡演習林のヒノキ林とクスノキ林が文化庁の「ふるさと文化財の森」に設定

概要

平成 24 年 3 月 2 日付で、九州大学農学部附属演習林（演習林長 吉田茂二郎）福岡演習林の 100 年生ヒノキ林（2.91 ha）と 82 年生クスノキ林（1.67 ha）が文化庁の「ふるさと文化財の森」に設定されました。設定書交付式が 3 月 23 日に文化庁で行われます。

「ふるさと文化財の森」は、文化庁のふるさと文化財の森システム推進事業の一環で、国宝、重要文化財などの文化財建造物の修理に必要な資材のモデル供給林及び技能者育成のための研修林として相応しい林に設定されるもので、本演習林のヒノキ林は檜皮（ひわだ）供給林、クスノキ林はクスノキ材供給林として設定されました。今後は、文化庁との連携のもとで両資材の供給林や研修の場として整備を進め、文化財修理用資材供給に関する研究や技能者研修を実施するとともに、学生教育、一般市民教育にも活用していく予定です。

背景

わが国の文化財建造物は木造が 9 割を占め、屋根も茅・檜皮などの植物性資材を用いて葺かれているものが多いことからその価値を維持するために、定期的な修理が不可欠です。ところが、文化財建造物の修理に用いられる資材には、大径材・長大材など特殊な木材や現在ではほとんど使われなくなった檜皮・茅・漆などが用いられているため、修理用資材の確保に関する幅広い取組が必要となります。このため、文化庁では、ふるさと文化財の森システム推進事業の一環として、国宝、重要文化財などの文化財建造物の修理に必要な資材のモデル供給林及び技能者育成のための研修林を平成 18 年度から設定してきたところで、3 月 1 日付で国内 38 箇所に「ふるさと文化財の森」が設定されています。

一方、福岡演習林では、設置当初からヒノキ、クスノキといった有用樹種の育成試験を実施してきたところで、現在若齢から高樹齢までの様々な人工林を所有しています。平成 9 年度からは文化庁および他大学演習林との共同で文部省科学研究費による文化財修理用資材に関する研究を開始し、現在も継続して研究を行っているところです。とくに平成 10 年には檜皮剥皮の実証試験を実施し、多くの研究成果を挙げています。

内容

昨年 11 月、福岡演習林の 100 年生ヒノキ林（2.91 ha）と 82 年生クスノキ林（1.67 ha）を久山町教育委員会および福岡県教育庁を通じ、文化庁に申請していたところ、3 月 2 日付で「ふるさと文化財の森」に設定され、設定書交付式が 3 月 23 日に文化庁で行われるとの通知を受けました。

効果

今年度は、福岡演習林の 2 箇所を含めた 7 箇所が新たに設定され、全国では合計 45 箇所となりますが、九州においては檜皮供給林とクスノキ材供給林の設定は初めてであり、九州における文化財補修資材の供給林および技能者育成のための研修の場として大いに注目されているところです。また大学としては、東京大学、京都大学、岩手大学に次いで 4 大学目の設定となり、研究はもとより、学生および一般市民への文化財保護や森林の多面的な価値への理解を深める教材としての利用が大いに期待されているところです。

今後の展開

今後とも福岡演習林では、文化財修理用資材確保に関する研究を継続するとともに、文化庁との連携のもとでモデル林としての整備を行い、資材の供給や技能者育成のための研修の実施に貢献するとともに、学生および一般市民への文化財保護や森林の多面的な価値への理解を深める教材としての活用を予定しています。

ヒノキ林



クスノキ林



【お問い合わせ】

九州大学 福岡演習林長 古賀 信也

電話：092-948-3117

FAX：092-948-3127

Mail：skoga@forest.kyushu-u.ac.jp

演習林研究部技術室長 大崎 繁

電話：092-948-3103

FAX：092-948-3127

Mail：osaki@forest.kyushu-u.ac.jp